



海田南小学校
通級指導教室だより No.10
平成30年 12月 7日(金)

通級指導教室では、こんなトレーニングをしています！

トレーニング紹介の前に、こちらのチェックリストをご覧ください。

- 目を合わせて話すことが 得意ではない。
- 多少なりとも 自分なりのこだわりがある。
- 話し始めると やめられないことがある。
- じっとしているだけで イライラすることがある。
- 予定が急に変更されると 戸惑うことがある。
- なんとなく集中力が途切れがちなことがある。
- していることを 突然投げ出したくなることもある。



私は、5つもあてはまりました。

実はこれ、発達障害の人によく見られる症状なのだそうです。

誰にでもありそうなことですが、これらの症状によって、社会生活上の困難さが引き起こされている場合、発達障害と呼ばれるそうです。

しかし、トレーニングを行うことによって、困難さを減らすことができれば、問題はなくなります。

大人も子どもも、注意されたり、怒られたりばかりだと、自信がなくなり、キレやすくなりますよね。

外見からでは分からない、コミュニケーションの問題を抱えていると、なかなか褒めてもらえない→やる気もなくなり、うまくいかず、怒られる・・・と、悪循環に陥ることがあります。

しかし、必要なスキルを身に付ければ、できることが増えて、困難さが減っていきます。通級指導教室では、そのためにトレーニングを行っています。

トレーニングの基本は・・・

「できるようになってほしい」行動を増やし、「してほしくない」行動を減らすことです。

そのために、褒めることを増やし、怒る・注意することをなるべく避けるように心がけています。

しかし、わざとらしい褒め言葉は、子ども達にすぐに見抜かれます。

うまく褒められない時は、「**ありがとう。**」が効果的です。

トレーニング紹介（家でもできる編）

Aさん

Aさんが筆箱を忘れていたので、友達が後ろから肩をトントンして知らせようとしてました。しかし、Aさんは、叩かれたと思って、友達にパンチをしました。

- パンチをなくしたい。
- 嫌いで叩いたわけではないこと（知らせようとしたこと）を理解させたい。

- ① まず、大人の肩を、子どもにトントンさせる。
- ② 振り向いて「何ですか？」と言う。
(モデリング)
- ③ 次に、役割を交代し、子どもに「何ですか？」と言わせる。
(リハーサル)

「何ですか？」と聞くことができれば、「忘れていたよ。」と教えてもらえ、「ありがとう。」で終わることができる。



何ですか？

Bさん

Bさんは、勝ち負けにこだわり、勝つまでやめません。負けると、負けを認めず、騒ぎます。また、ルール通りやったのに、「ずるい！」と叫びます。

- 騒ぐ・「ずるい！」をなくしたい。
- 相手を不快にしない言葉に代替したい。

- ① ゲームで勝負
(「じゃんけん」「分数大好き」「SST すごろく」「五目並べ」「漢字神経衰弱」など)
- ② 負けたら、「残念。」と言う。
(まずは、大人がやって見せる)
- ③ 勝負がつくたびに、「残念。」を言う練習

本心から言えなくても、トラブルは回避できる。

「ずるい！」は、ルールを守っている相手に嫌な思いをさせ、トラブルの元を作ります。
(「残念。」を嫌がる時は、まずは、「まあいいか。」等から練習します。)



残念。

1 つずつ教えていたらきりが無いと思ってしまうかもしれませんが、繰り返してトレーニングして丁寧に身に付けていくことで、他のことにも応用できていきます。

一般的に、2 つ以上のことを同時に進めていく並行処理が苦手な特性もありますので、スモールステップで確実に習得できるように心がけています。